

1. 遊牧 2. 酪農 3. 燒畑農業 4. 灌溉農業

1. 住民の約7割がイスラム教徒であり、西アジア諸国との経済的な結びつきが非常に強い。

2. イギリスの植民地時代にプランテーションが作られた影響で、茶の栽培が盛んになった。

3. 広大な平原を利用した小麦の企業的牧畜が盛んで、乾燥した気候に適した産業が発達している。

4. 豊富な原油や天然ガスを輸出の柱としており、南アジア最大の資源産出国である。

1. 特定の一次産品への経済依存度が高く、国際価格の下落が国内経済に大きな打撃を与えやすい。

2. 自国内で全ての経済活動が完結しているため、世界の景気変動による影響をほとんど受けない。

3. 工業化が高度に進展しており、原油価格が変動しても工業製品の輸出で安定した収益を確保できる。

4. 輸出先が多岐にわたるため、特定の品目の割合が高くても経済の安定性が非常に高い。

1. 伝統的な焼畑農業が爆発的に増加し、それ以外の産業が衰退して森林の再生が追いつかなくなったため

2. 先進国などへの輸出を目的としたパーム油の生産や、木材の伐採といった経済開発が進んだため

3. 冷帯のタイガと同じように、住宅建設用の針葉樹を大量に輸出する政策へと転換したため

4. 砂漠化を防ぐために外来種の植林を優先し、もともとあった熱帯雨林をすべて植え替えたため

1. メキシコ 2. サウジアラビア 3. ブラジル 4. アラブ首長国連邦

1. 内陸部の農村地帯を中心に工業団地を整備し、伝統的な手工業の近代化を図った。
2. 外国企業の進出を厳しく制限し、自国の国営企業のみで重化学工業を育成した。
3. 税制の優遇などによって外国企業を受け入れ、海外の資本や技術を取り入れた。
4. すべての都市を特別行政区に指定し、外国の政治制度をそのまま導入した。

1. 農耕を基盤として発展し、周辺の民族に文化的な影響を与えながら人口を増やしてきた。
2. 高地での稲作を専門とし、独自の仏教信仰を軸とした政教一致の社会を築いてきた。
3. 広大な乾燥地帯で遊牧を主な生業とし、移動式住居で生活する伝統を持つ。
4. 東部沿岸部のみに居住し、19世紀以降にヨーロッパから移住してきた人々の子孫である。

1. 経済特区の設置などで工業化を進めて「世界の工場」と呼ばれ、現在は少子高齢化が課題となっている中国
2. 農業が主要産業で年少人口の割合が非常に高いが、1人あたりの国民総所得は依然として低い水準にあるバングラデシュ
3. 1人あたりの国民総所得が世界トップクラスで、極めて高い技術力を持つが人口減少が深刻な日本
4. 豊富な石油資源を背景に高い所得水準を誇るが、社会保障制度の充実により年少人口の割合が高いサウジアラビア

1. ハイテク産業への完全な移行により、重工業から軽工業へと産業の重点が移ったこと

2. 国内の鉄鉱石資源が枯渇したため、生産を縮小し製品の輸入に切り替えたこと

3. 改革開放政策による工業化の進展と、都市開発や交通網整備などのインフラ投資の拡大

4. 環境保護を最優先する政策により、鉄鋼生産を抑制しリサイクル型社会へ転換したこと

1. 欧米諸国に比べて労働力人口が過剰であるため、急速な高齢化による経済へのマイナスの影響は全く懸念されていない。

2. アジア州全体で合計特殊出生率が急上昇しており、将来的には高齢化率がヨーロッパ諸国よりも大幅に低くなることが予測されている。

3. 経済発展に伴う生活水準の向上や医療の普及により平均寿命が延び、同時に出生率が低下したことで、短期間で社会構造が変化している。

4. アジア諸国では伝統的に大家族制が維持されているため、高齢化が進んでも社会保障制度の整備を急ぐ必要はない。

1. 第1位：自動車、第2位：医薬品、第3位：衣類
2. 第1位：機械類、第2位：石油・石炭製品、第3位：鉄鋼
3. 第1位：鉄鉱石、第2位：原油、第3位：大豆
4. 第1位：米、第2位：魚介類、第3位：木材

1. 広大な国土を活かした資源採掘と、欧米文化の影響を受けた新しい産業の創出により、パソコンやスマートフォンなどの製造に特化した。
2. 太平洋沿岸の好立地を活かして加工貿易を推進し、原材料の輸入から製品の輸出までを一貫して行うことで生産シェアを拡大させた。
3. ソビエト連邦の崩壊後、市場経済を導入することで急速に工業化が進み、特に情報通信機器の分野で高い技術力を獲得した。
4. 世界最大の人口を背景とした豊富な労働力を活用し、高度な工業化を推進した結果、電子機器の分野で世界的供給源となった。